



先吉は 都内で働きついで

その年<sup>1</sup>に どこかにかきとめりふけず

たぐ どのにしまつたのちろろ

そんな時<sup>1</sup>は かつぶら

はつ新<sup>1</sup>へ行つたりと いそがしさはまぎれて

いふ ども又<sup>1</sup>は おそ氣を帯と思つて

しきり

とある日 先吉からの 花より木更つた

「お氣をいれ」と とりりろが 文面をよむ

いつものように きちんとした字だ

手紙は私のニとも すべてお茶葉園をけい

ひたニと そつと終りに 知らしめしむ

とある 加何い具合がわるあつたのだ

ひきあわつた いつものように たよりを

ひきあわしむもの

何と感<sup>1</sup>が せつ<sup>1</sup>つしきつたのか

そんな時<sup>1</sup> ありあつた方がよいのだ

2019 8/30